

Vol.82

石狩開発 株式会社

ISHIKARI DEVELOPMENT CO. LTD

編集発行/営業推進部

北海道石狩市新港西 1-721-11

TEL 0133(72)2300 FAX 0133(72)4055

https://www.ishikari-dev.co.jp

石・狩・湾・新・港・地・域 SAPPORT NEWS

●産業拠点● SYNERGY = SAPPORO × PORT × INDUSTRY



写真提供：グリーンパワーインベストメント

▲商業運転を開始した石狩湾新港洋上風力発電所



▲建設中の石狩地域バイオマス発電所

湾区域の一部(約500軒)洋上に設置され、単機出力8kWのS I M E N S G A M E S A R E N E W A B L E E N E R G Y 製風力発電機を14基設置され、総出力は11万2kWとなります。

またそのほかにも、丸紅100%子会社の丸紅グリーンパワー(株)と大成建設(株)が出資する、石狩地域バイオマス発電(株)が開発を行う「石狩地域バイオマス発電所」の建設が進められており、昨年10月に起工式を執り行い、2026年1月の運転開始を目指して工事が進められています。

地域内には既に、昨年3月より営業運転を開始した石狩バイオエナジー(同)が運営する、「石狩新港バイオマス発電所」が営業運転を開始しており、札幌圏において石狩湾新港地域は再生可能エネルギーの一大集積地化が進んでいます。

家庭約2万5000世帯分の電力を発電)となります。同社では、石狩市と「災害時の倒木等の受け入れに関する協定書」を締結しており、災害時に発生した倒木や流木等を石狩市からの要請に基づき、受け入れ、保管および資源化することで、倒木等の発電燃料などへの再利用、ならびに地域の災害対策に貢献していくこととて

▲挨拶する阿部会長

再エネ施設続々と 国内最大規模の洋上風力発電所商業 運転開始、新たなバイオマス発電所着工

(株)JERAおよび(株)グリーンパワーインベストメントが特別目的会社(SPC)である国内最大規模の商用洋上風力発電所である「石狩湾新港

◆石狩湾新港地域では様々なプロジェクトが行われています
令和5年度の石狩湾新港地域内では、多数の企業進出があり、また、洋上風力発電をはじめとした、再生可能エネルギー施設や大型施設の操業等がありました。
また、地域内への交通インフラの整備が求められるなか、石狩市では、新たな軌道系交通の調査も行われています。
今号ではそれらの一部を紹介いたします。



▲石狩新港バイオマス発電所

第36回新年交流会を 開催 1月23日 石狩湾新港企業団地 連絡協議会 主催



▲第一部 講演会の様子



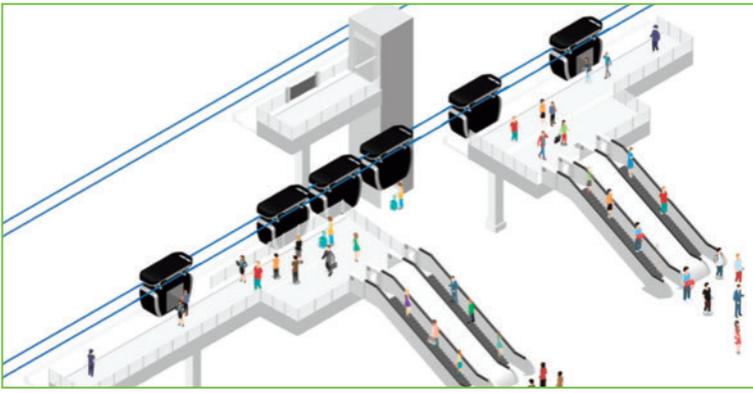
当地域内の協同組合と自治会などで構成されている石狩湾新港企業団地連絡協議会(会長 阿部 仁氏)の第36回新年交流会が1月23日、4年ぶりに札幌市内のホテルで通常開催され、講演会・交流会併せて延べ180名を超える立地企業の方々や官公庁・関連団体の関係者等が出席されました。

交流会の開催に先立ち、第一部では北海道電力(株)鈴木博之常務執行役員より「ほくでんグループ カarbonニューtralへの挑戦」と題し、北海道内におけるほくでんグループのエネルギー全体のカーボンニュートラルの実現に向けた取組や今後のビジョンについて、講演が行われました。

第二部の交流会では阿部会長より、これまで協議会で25年以上に渡り実施してきた清掃活動「春季・秋季クリーン作戦」や、地域の発展・活性化に向けた活動等の状況について報告があり、同協議会活動への引き続きの理解・協力をお願いがありました。

その後、来賓を代表して、伊藤雅美北海道経済部産業振興局長、迫俊哉小樽市長、小鷹雅晴石狩副市長から挨拶があり、立地企業間や行政・金融機関などの来賓関係者との懇談の輪が幾重にも広がりました。

石狩市 新たな軌道系交通の調査について



▲軌道系交通施設イメージ



▲想定ルート図

石狩市では現在、公共交通機関は路線バスしかなく、明治以来、軌道系交通施設の構想を有していたものの、事業の採算性や財政負担などの課題があり、案が浮かんではいない状況です。

また、石狩湾新港地域における路線バスが令和6年3月末で廃線となることが決定したことで、今後の地域のさらなる発展には、今まで以上に交通インフラの整備が求められています。

今後、石狩市内外からの通勤者や、商業エリアの開発に伴う、札幌圏からの人流の増加が見込まれる中、石狩市特有の課題(交通渋滞や積雪による道路狭窄など)を気にせずに行き来出来るようになることが住民や地域内で働く従業者のためにも必要であり、今後石狩湾新港地域がさらなる発展を遂げるきっかけになると言えます。

本調査では令和5年7月から令和6年2月末までの期間で導入可能性調査を行っており、「積雪期の安定的な交通モードの検討」「ルート選定」「事業採算性」「財政負担」「官民連携の在り方」などの調査研究や再生可能エネルギーの導入や脱炭素、ゼロカーボンシティなどを将来に向けた検討をしております。

この調査研究事業の結果が、石狩湾新港地域の発展に寄与するものであることを願うと同時に石狩湾新港地域の企業との連携も期待して、今後の動向にも注目してまいります。

◆ 企業 紹介 ◆

日本ホイスト株式会社 TEL 0133-75-6040

日本ホイスト(株) (本社：広島県福山市 代表取締役社長 村上 正士) は石狩湾新港地域内の小樽市銭函4丁目にて北海道工場兼札幌営業所が昨年10月末に竣工しました。

同社はクレーン一式販売を主体とした、製造、販売、施工、保守を一貫して行う、クレーン、ホイスト(※)の業界トップメーカーであり、国内外に拠点を有するグローバル企業です。

同社は、札幌市東区にて札幌営業所を開設しておりましたが、道内で同社のクレーンに対する需要が年々高まっている状況から銭函4丁目北海道工場を新設し、併せて札幌営業所も同地へ移転しました。

同社の取り扱うクレーンは、多種多様な工場で使用され、重量物の移動等で作業の省力化・省人化に寄与しています。

※ホイスト：重い荷物を持ち上げて運搬するために用いられる巻き上げ式のマテハン機械のこと



▲北海道工場兼札幌営業所

株式会社 ジョイフル TEL 0133-60-2720

(株)ジョイフル (本社：宮城県富谷市 代表取締役社長 佐藤 勝) は石狩湾新港地域内の石狩市新港中央2丁目にて北海道工場の稼働を開始しました。

同社は大手自動車用品販売チェーンの(株)イエローハットのグループ企業で、自動車用ケミカルの製造を行っており、そのほかにも多種多様なカー用品の卸売りも行っています。

昨年12月本格稼働を開始した北海道工場は、6,600平方メートルの敷地内に延床面積1,555平方メートル、地上二階建ての工場で、主にウィンドウォッシャー液やクーラント液、バッテリー液の製造を行っており、同社が取り扱う商品は全道各地のイエローハット店舗及びホームセンター・ドラッグストア等の量販店で販売されています。



▲稼働を開始した北海道工場

アジア最大級の物流展“国際物流総合展 2023” ほか出展 ～札幌臨海小樽・石狩地域産業活性化協議会事業～

アジア最大級の物流・ロジスティクスに関する展示会「国際物流総合展2023」(開催期間2023年9月13日～15日/会場 東京ビッグサイト)及び食品分野の研究・開発、品質保証、製造技術者向けの専門展示会をテーマにした国内唯一の展示会「食品開発展2023」(開催期間2023年10月4日～6日/会場 東京ビッグサイト)が開催され、北海道・小樽市・石狩市・石狩湾新港管理組合・石狩開発(株)の五者で構成する「札幌臨海小樽・石狩地域産業活性化協議会」の2023年度事業として出展しました。

第3回目の開催となる国際物流総合展2023インベーションエキスポは、「知恵と技術を集結し、2024年問題を解決する」をテーマに、最新の物流システム機器や情報システム、サービス等のハードとソフトが集結する展示会で、国内外のロジス

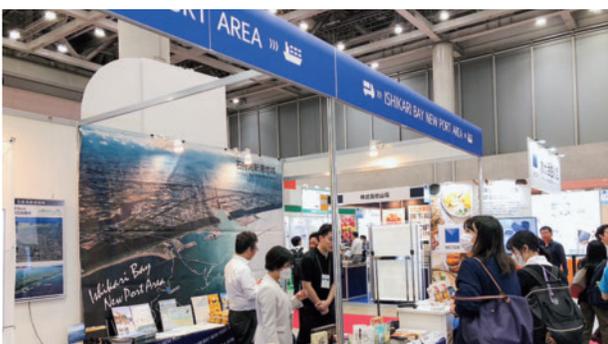
ティクス関係が一堂に会し、活発な技術交流、ビジネス交流が行われました。当地域のブースでは札幌圏の物流拠点である石狩湾新港地域の優位性等についてPRを行い、多数の来場者が訪れました。

また、今回で第34回目の開催となる食品開発展2023は「食品の健康機能と食品の美味しさ、品質・安全性の探求」をテーマに、様々な技術が集まる場として国内外に情報を発信する展示会で、食品製造業・卸売業・小売業の担当者等が多数訪れ、札幌圏の食品にかかわる物流拠点の集積と当地域が持つ優位性をPRする当ブースへ多数の来場者が訪れました。

今後も協議会のメンバーとして石狩湾新港地域の魅力を全国・世界に対して発信していきます。



▲国際物流総合展



▲食品開発展